第3回経営戦略会議

事前説明時における主な意見

➢ 図書館のあり方について

① 情報のオンライン化が進み、図書館サービスに求められる機能が変化してきたと思う。図書館がなんのためにあるのか、目的を明確化するべき。（目的が「市民が書籍にふれること」なのか、「交流」なのか）目的を複数にすると共倒れになってしまう。

② 時代の変化に適応した図書館機能をつくるには、市民がどのようなニーズを抱えているのかを考慮する必要がある。情報のオンライン化が進んでいる中、単に本を読みたいというニーズは減っているのではないか。一方で、自習室としての機能は依然として必要とされているのではないかと思う。

③ 図書館サービスを考える上で、経営的視点としての3C（Company ， Consumer, Competitor)を意識すべき。

Company・・・豊中市の強み、弱み　Consumer・・・利用者（市民）　Competitor・・・競合相手（事業者等）

➢ 電子サービスの活用について

④　昨今、民間での電子書籍サービスが広まっていることからも、電子と紙媒体の棲み分けを考えるべき。その際には、民間サービスとの競合性を意識し、分析を行うことが重要。また、電子書籍だけではなく、紙媒体の良さを広げることや本を読む習慣をはぐくむことも重要。

⑤　図書館のデジタル技術（電子書籍等）の導入は、働いている人にはニーズがあると思う。

⑥　電子図書館サービスを行う上において、単に本の貸し借りを行うような、無機質な機能ではもったいない。本のタイトルや表紙をインターネットに並べるだけでなく、「この本読んでみたいな」と意図せぬ本との出会いや選択できる工夫をすべき。

⑦　電子図書館でも、人と人が出会える場をつくれるのではないか。例えば、ゲーム世代の子どもたちを対象に、ゲーム感覚でたくさんの人に出会える場をつくるなどしてはいかがか。

⑧　また、「メタ」と「リアル」を行ったり来たりしながら、他者とのつながりを創出するなど、他市にはない尖った機能があると良いのではないか。

➢ 施設のあり方について

⑨　本の貸出し箇所を増設すると、予算の制約上、書籍数が限定され、上手く機能しない懸念がある。ターゲット層や分野を絞って書籍を収集することや、図書館ごとに特色を出すことも考えてみては。

⑩　豊中市の規模を考えると、図書館の数ではなく、質を充実させる方向性は良いと思う。海外でも図書館を多数整備するのではなく、立地の良い場所に大規模な図書館を1カ所設置することが主流となっている。

⑪　地域に根付いた図書館をつくるためには、居心地の良い空間をつくることが重要ではないか。「こども本の森　中之島」や「ヘルシンキ中央図書館」はくつろげる椅子や広い階段など子どもが使いやすいデザインとなっていたり、軽食がとれる場があったりするため、多くの利用者がいる。

【参考外部リンク】　「こども本の森　中之島」　https://kodomohonnomori.osaka/
ヘルシンキ中央図書館「Oodi」　https://oodihelsinki.fi/en/

⑫　司書と利用者の「顔が見える関係づくり」をすることも良いのではないか。

➢ 地域交流の場としての機能について

⑬　民営の図書館では、様々な職種の人がボランティアで店番を務める「お店番インターン」や自分のおすすめの本を自由に置くことができる「一箱本棚オーナー制度」など独自の取組みにより、地域のつながりを創出している事例がある。市営図書館においても参考になる機能があるのでは。

⑭　図書館は、交流の場・協働の場としての機能も担っていると思うが、「特定の人」だけが利用しているという状況は避けなければならない。使いたいと思ったときに、誰もが使える環境を整えることが必要。

⑮　図書館は、高齢者の居場所としての役割を果たすことも重要であると考える。図書館に通うことで体と頭の運動につながり、良好な生活循環をつくる一助になるのでは。

⑯　多世代交流を推進する場合、高齢世代のメリットをもとに考えられた事業が多いと感じる。若い世代の意見や視点も取り入れて事業を実施することも重要である。

➢ 施策の方向性について

① 具体的な取組みを進めるまえに、まずは取組みの姿勢を整理すべき。

② 支援策を行うにあたっては、利用者の具体的な目標やビジョンを聞き、何に対してどこまで支援が必要なのかを整理した上で、行うべき。

③ 女性がよりリーダーシップを発揮できるよう、また、女性の発想や考えを活かせるよう、女性支援施策は積極的に行っていくべきだと思う。海外では、会議体の長を女性が務めることも多い。

④ 性別を「男性・女性」と二元的に表現することで、疎外感を感じる人もいるため配慮が必要。また、「女性」の定義を考えることもダイバーシティ施策につながる。（性自認で定義するなど）

⑤ 女性の働き方に対する意識改革は、一朝一夕で成し遂げられるものではなく、地道な取組みを続けることが重要と考える。

⑥ 女性活躍推進施策は、打ち出し方が重要。単に「女性を支援する」ということではなく、「女性はマイノリティの中のマジョリティであるため、ダイバーシティ推進にあたり、まずは女性支援から進める」ことを伝えることで共感を得られるのでは。

➢ ロールモデルについて

⑦　女性活躍を推進するうえでは、ロールモデルをつくることが重要だと思う。ロールモデル（女性管理職等）に仕事やプライベートの相談ができる環境を整えることで、明確なビジョンをもって働くことができるのではないか。

⑧　大阪商工会議所では、女性のロールモデルとなる人を毎年表彰している。受賞者同士のつながりから、コミュニティが生まれ、活動の一環として、学校等に出向き自身の経験を伝えている。
また、第一期受賞者有志20名のコンソーシアム「万博サクヤヒメ会議」（3/1に一般社団法人設立）が、大阪万博のパビリオンでの催しを企画している。

⑨　起業家の交流の場はあるが、雇用されている女性同士が集えるような場は少ないと感じる。働くうえでの悩みを共有できるような出会いの場を定期的に開催してみては。（例　関西経済同友会の女性リーダー塾）

➢ 求められる施策・その他

⑩ 現在、市では起業に関する各種講演や相談を行っているが、「入口」だけでなく「出口」までの支援を行うと、もっと起業家が増えると思う。

⑪ 起業をめざしている女性には、費用・労力・時間等の関係から、まずはスモールスタートで始めたいと思っている人が多い。

⑫ 起業や事業を行うにあたり、実施できる場所を探すのに苦労している人は多い。公民館は使用条件が厳しく、民間事業者が使用できないケースが多い。期間限定で、スペース貸しを行うなどの支援を行ってはどうか。

⑬ フリーランスについては、働き方の一つであるとは思うが、市税の還元があまり期待できないことからも、行政支援をどの水準まで行うべきか判断が求められると思う。

⑭ 大学内の取組みとしては、女性活躍についての情報の一元化を行い、発信を行っている。